

「業界の底上げと地位向上を目指す」 田川JATA新会長が就任会見で抱負

JATAの田川博己新会長は7月2日の就任会見で、「中小規模旅行社や地方の旅行社の声を十分に聞きながら、激動するマーケットの変化にも迅速に対応しつつ、業界全体の底上げと地位向上に取り組んでいきたい」と抱負を述べました。

田川会長は、「業界を取り巻く環境も変化する中で、ツーリズム産業の役割と期待が非常に大きくなっている」と指摘。ツーリズム



産業のGDPに占める割合が5%にとどまっているのに対し、雇用全体に占める割合は6・2%に達していることに言及して、「世界全体の9%台に比べて日本のツーリズム産業における就業人口はまだ小さく、日本経済が成長していく過程でツーリズム産業の就業人口を増やしていきたい」と語っています。旅行業の果たすべき役割が国内だけにとどまらず世界規模でも広がっていることから、田川会長は「日本の旅行業界を代表するJATAという組織の役割は極めて大きい」という認識を示しました。また、訪日外国人旅行者数が急増していることを踏まえ、「海外・国内・訪日の3つの分野のバランスをいかにとるかが重要であり、特に、地域経済における総合力を形

成していく上で、旅行業の役割が問われる」と強調しています。

さらに、田川会長は、アジア各国で中間所得層が増加するのに伴って、域内だけにとどまらず、世界中に旅行者が拡散していく可能性が高まっていると言及。

「世界規模でアジア地域が注目を集める中、日本がどういうポジションニングを取るかが非常に重要」と語り、「渡航自由化からの50年間に培ってきた仕組みやノウハウをアジア各国に伝え、拡大するアジア市場をリードする役割が求められている」と訴えました。

9月に開催が迫っているツーリズムEXPOジャパンについて、田川会長は「まさに、オールジャパン体制で開かれる第1回のイベントを、日本のツーリズム産業の先進性を象徴する場とできるよう、UNWTOなどの連携も図りながら成功に注力したい」と決意を示しています。

埼玉県長瀨町の宝登山で下草刈り 社会貢献委員会が「JATAの森」活動

JATA社会貢献委員会は6月28日、埼玉県長瀨町の宝登山で「JATAの森」の下草刈りを実施しました。

下草刈りには、JATA会員会社の社員と家族など44人が参加し、終始雨の降るあいにくの天候の中、約0・5ヘク

タールを5班に分かれて活動を行いました。

現場には、雨にも関わらず長瀨町の平健司副町長も訪れて挨拶をされ、公益社団法人埼玉県農林公社の田中清則氏から草刈の方法について説明いただきました。

JATAでは、2009年から環境保全活動の一環として、長瀨町の里山であ

る宝登山を色彩豊かな森にすることを目指し、会員会社とともに植樹や下草刈りを行う森づくり活動「JATAの森」に取り組んできています。

下草刈りは、夏本番を迎える前に繁茂する草木を取り除くことにより、光や空気の流れを良くして植えた木々の成長を促進させる働きがあり、植栽木の成長には不可欠な作業の一つです。

信頼と実績のロングセラー JTBパブリッシング

JTB時刻表シリーズ

●毎月20日発売 ※発売日は変わる場合がございます

旅にデスクに
定番の一冊

JTB
時刻表

月刊●B5判●定価1,183円(税込)

携帯に便利な
コンパクト
サイズ

JTB 小さな
時刻表

不定期刊●B6判●定価648円(税込)

大きな数字で
読みやすい

JTB 大きな
時刻表

不定期刊●A4判●定価1,389円(税込)